



今月の案内人
神谷 齊さん(和泉町)



★学甫堂(丈山文庫)
／和泉町



石燈籠



僧都



展示室



その29 学甫堂(丈山文庫)

丈山文庫は、戦国時代末期に、三河国泉郷(今の和泉町)で生まれた文人・石川丈山の功績を広く伝える目的で設けられました。

丈山は、元は徳川家康の家臣で、数々の手柄を立てましたが、大阪夏の陣の時、家康が将兵の傷つくのをおそれ、先陣争いを禁じたので、

しつて使われていた建物が「学甫堂」です。59歳で京都一乗寺に詩仙堂を開いて移るまでの間、そこに住んでいたのです。

時代は移り変わり、睡竹堂・学甫堂の存在は人々から忘れられていきました。昭和44年、荒廃に任せながらも、かろうじて現存していた学甫堂を丈山の生まれ故郷和泉町に私の父・義郎が移築・補修して、庭園や展示室を設け、睡竹堂の名を継承して開館したのが丈山文庫です。

学甫堂は木造平屋建ての茅葺で、三畳一間に床の間と濡縁が付いた、小さな数寄屋風の建物です。この学甫堂の畳に座り、丈山遺愛の石燈籠やつくばいが置かれた庭園を眺めていると、時折、僧都(鹿威し)の「コーン」という音が響き渡り、往時のおもかげを思い起こすことができます。

丈山は造園、茶道(せん茶)、また、漢詩や隷書などのさまざまな分野でその才能を発揮しました。丈山文庫内の展示室では、丈山の書や愛用の品々のほか貴重な作品を見ることが出来ます。静かなたたずまいの中で、郷土の偉人、丈山の世界と思考にあなとも触れてみませんか。

丈山文庫開館日時▼土・日曜日午後1時～5時 入場料▼一般300円